



# 新型コロナウイルスで変わるものと、変わらないもの

牛島 聡会員

コロナにより私たちはライフスタイルや働き方など劇的な変化を余儀なくされました。このような変化はコロナが流行しなくてもそのうち起こる変化だったのでしようが、それを急加速させられたのだと思います。

政府が多額の予算と広報活動費を使って啓蒙推進していたにもかかわらず、思うように国民が動かなかった「働き方改革」や「デジタル化」、「マイナンバー普及」などは、皮肉にもパンデミックで一気に普及してしまいました。企業ではどうでしょうか。テレワークは予習をする間を与えられず実行を余儀なくされました。我が社のような弱小企業でも現在は一部を除きほぼ終日テレワークで、オフィスはガラガラです。

コロナ禍に伴う働き方の変化は、家庭のデジタル化とテレワークの定着を一気にもたらしたので、消費支出では、パソコンが一昨年と比べて50%増、照明器具が63%増と大きく伸びたそうです。これまでビジネスで必須だった商品は苦戦しています。スーツは47%減、ワイシャツは31%減となっているので、紳士服チェーンはオンライン会議に出席する際の服装に着目した商品を投入して、テレワーク需要の取り込みを強化しています。昨年からの消費潮流が今年に入って一段とはっきりとしたこととなります。

コロナ禍の収束で社会経済活動が正常化すれば、苦戦している分野の需要は戻ると考えられますが、2年以上にわたり消費者が感染防止のために実践してきた新しい生活様式も定着するとみられています。ポストコロナの消費を見据えた対応が出来るか出来ないかが企業の存続にも影響しそうです。

コロナの影響で余談ですが、私はマンションや建売などの不動産広告を扱っていますが、昨年から都内の不動産の価格が上がっていることに驚いています。この道40年では日本のバブル期以来の高騰です。この一年で都内のマンション価格は24.8%の上昇です。原因は色々上げられますがその一端と言われているのが各国でのコロナ景気対策の低金利政策です。日本、特に東京の不動産価値は世界的に見ても安定した資産になるので中国富裕層を中心に買われているからです。皮肉にもコロナで困っている人の為の低金利が、富裕層に多くの富を作る切掛けを生み出したのです。

では、変わらないものは何でしょうか。社会では年功序列、終身雇用の時代は終わっています。そのような環境から「自己能力を磨き、個人としての市場価値を高める」「自己管理が重要」といった近年求められていたものは、コロナにより、より強く求められることになりそうです。

ネット売買、宅配事業は更に拡大するでしょう。しかし、私たちは変わらないもの、変えられないものがありますよね。ネット販売だからこそ品質の良いものを提供しなくてはなりませんし、ネットの書き込み評価では測れないことも多くあります。マンションや戸建て建売のプロモーションでは、コロナがきっかけでモデルルームに出向かなくても見学が出来るバーチャル動画が流行っています。しかし、一生の買い物をバーチャル動画や他人の口コミで買う人はいませんよね。部屋の広さや使い勝手などは実物を見ないと決められないですし、駅からの動線や周辺環境など、グーグルアースを観ただけでは信用できません。洋服や靴だって決まったメーカー以

外ではサイズ感が異なることも有ります。私はネットで選んで、実際の店舗で実物を確認して購入しています。

先日、岩佐さんからスポーツシューズを購入しましたが、LINEの写真だけでは不安でしたが、さすが岩佐さんです。フィッターの方を連れてこられて実際に履いてみてアドバイスも頂きました。このような心の通ったサービスはコロナであってもなくても必要なことですよ。

不自由な環境でも人と人とのつながりを大切にすることはウイズコロナでも、変らないもの、変えられないものだと思います。

では、ロータリークラブはどうでしょう？コロナでロータリーが変わったもの、変わらないもの、そして変えられないものは何でしょうか。変わったものとして一番大きなことは例会や各種事業のオンライン化でしょう。

ZOOM やウェビナーで移動することなく世界とつながることが可能になりました。ガバナーエレクトの研修も全てオンラインでしたし、現在行われている各種連絡会や協議会、セミナーもフルでのオンラインもしくはハイブリットです。

しかし、多くの奉仕の実践や親睦は出来ていません。ロータリーにとって変わらないもの、変えてはいけないものは、それは、やはり奉仕の実践と親睦でしょう。

日本のロータリーはバブルが弾け、リーマンショック、阪神淡路大震災、東日本大震災と相次いで起こる災難で多くの会員を失いました。経済の成長期は終わり、人口減少の加速により縮小経済の中、唯一の頼みで有ったインバウンドもコロナの終息まで望み薄です。首都圏など都市はまだ耐えています。地方のロータリーは疲弊しています。コロナを乗り越えた先に世界的に大きな会員の減少が残るでしょう。このような状況下での会員増強は困難と思われませんが、一人では出来なくても同士が集まれば大きなことが出来るのがロータリーだと思います。ウイズコロナを共に歩める友を増やしたいですね。

入会3年未満の会員対象の地区ワークショップで水野パストガバナーは、コロナ過の後のロータリーにとって求められるのは「価値あるロータリーになることですよ」とおっしゃいました。価値あるロータリーとは、「新しい人との出会いの機会を作り」奉仕や親睦などで「ワクワクして楽しい」ロータリーにすることだともおっしゃいました。

先ほど、以前は10年かかっていた変革が近年は2、3年と言われていると申し上げましたが、この時代、5年前は昔の事ようになります。私のような凡人には5年先は創造もつかない未来ですが、これだけは言えると思います。世の中の変化に対応することが出来る組織は社会に必要とされ、逆に変化する事に躊躇していると社会から取り残されることになるでしょう。

我々東京お茶の水ロータリークラブは地域社会にとって掛け替えのない大切な存在になりたいものです。躊躇することなくウイズコロナ時代の先取りをしながら明るい未来を導き出しましょう。それは私たち自身がワクワクすることでもあり、クラブが未来に向けて前進していくことでもあります。100年前のスペイン風邪依頼、世界が経験したことのない新型コロナにより、大きく変わったものも多くありますが、人が生きていくうえで変えてはいけないものに気づかせてくれました。

ドラッカーの言葉に「変化に対応し、変化を機会として利用する」とあります。まさしく、それが今でしょう。